

経営者への活きた言葉

いかなる立場でも謙虚さを忘れず、己を磨き続ける 伊與田 覺(論語普及会 学監)

1. 四書しよ五経ごきょうの一つに数えられる「易えき経きょう」は、天の理法、人の道を説くもので、リーダーたる者はすべからず易を学ぶべし、易を知らずば宰相さいしよとなるなかれともいわれ、重視されてきました。「易経」には、「乾けん」は、元おおいに亨とおりて貞ただしきに利よろし」と言葉があります。「乾」は明るく活動的な姿。「元いに亨りて」は、思ったことが遂げられていくこと。つまり、明るく活動的な人物は何事にも通じ、思いを遂げられるという意味です。
2. ただし、そのためには「貞きに利ろし」、正しい行為を積み重ねていくことが大事だと説かれています。乾は、健康にも通じ、素質のいい、将来性のある人物の例えです。そういう立派な君子となるためにも、正しい行為を怠ることなく積み重ねていくことが大切なのです。立派な君子になるための正しい行為とはどのようなものでしょうか。
3. 「易経」では、その道筋を龍が天に昇る様子を例え、段階的に説き示しています。それは初九しよきゆう、九二きゆうじ、九四きゆうし、九五きゆうご、上じょう九きゆうの六段階で、会社でいえば平社員、係長・課長、部長・局長、重役、社長、会長に当てはめて考えれば分かりやすいでしょう。「易経」ではこの後、九五、上九を経て「群ぐん龍首りゆうかしらなきを見る。吉きちなり」、つまり終わりを立派に全うし、喜ばしい状態に至れると説かれています。いかなる立場にあっても謙虚さを忘れず己を磨き続けることが大切です。

(参考:「致知」2013年5月号)

ワンポイント経営アドバイス

会社の経営はリレー競争 上田 準二(ファミリーマート会長)

1. 会社の経営はリレー競争です。前の経営者が全速力で次の経営者の所に突っ込んでくる。新しい経営者はそのスピードで走り続けられないといけません。今は変化の速い時代ですし、競争も激しいからなおさらです。
2. そもそも、企業というものは改革を続けていかなければなりません。私は組織やコスト構造などの改革を進めました。例えば、人事制度では年功型をやめました。やる気のある人間については、褒ほめ称たたえて、天井にぶつかって痛いというまで胴上げする。例えて言えば、そんな制度にしたのです。

(参考:「日経ビジネス」2013年2月25日号)